

事例番号:290315

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 6 日

時刻不明 妊産婦希望のため受診

8:59 胎児心拍数陣痛図で遅発一過性徐脈、基線細変動がやや減少

9:10- 胎児心拍数陣痛図で一過性頻脈なし、高度遅発一過性徐脈、軽度および高度遷延一過性徐脈あり、その後に基線細変動の消失

9:25 胎児機能不全の診断で入院

4) 分娩経過

妊娠 40 週 6 日

10:09 胎児機能不全のため帝王切開にて児娩出

胎児付属物所見 羊水混濁(3+)

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:40 週 6 日

(2) 出生時体重:3436g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.09、PCO₂ 54mmHg、PO₂ 12mmHg、BE -13.9mmol/L、
HCO₃⁻不明

(4) Apgarスコア:生後 1 分 5 点、生後 5 分 7 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(ハックル・マスク、チューブ・ハックル)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 新生児仮死、胎便吸引症候群、新生児遷延性肺高血圧症

生後 15 日 緊張性気胸

(7) 頭部画像所見:

生後 2 ヶ月、3 ヶ月 頭部 CT および MRI で左大脳半球の萎縮、左脳室周囲の信号異常、左大脳基底核・視床の変形を認め、胎児低酸素・酸血症の存在を示唆する

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名

看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 2 名、准看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児低酸素・酸血症である可能性がある。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯圧迫による臍帯血流障害および胎盤機能不全の両方の可能性があると考ええる。

(3) 胎児は、妊娠 40 週 6 日の受診時には低酸素の状態であり、さらに妊娠 40 週 6 日の 9 時 10 分以降に低酸素・酸血症が進行した可能性があると考ええる。

(4) 胎便吸引症候群による新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN) が脳性麻痺の増悪因子となった可能性があると考ええる。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は概ね一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 40 週 6 日の受診時の胎児心拍数陣痛図より、胎児機能不全と診断し、帝王切開を決定したことは一般的である。

(2) 帝王切開決定から 44 分で児を娩出したことは一般的である。

3) 新生児経過

- (1) 出生直後の新生児の状況(1回自発呼吸あるが以降なし、刺激に対して啼泣せず)に対して生後3分にバッグ・マスクによる人工呼吸を開始したことは一般的ではない。
- (2) 生後3分以降の新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)、および生後31分での高次医療機関NICUへの新生児搬送は、いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 家族からの質問が多く提出されているため、医療スタッフは十分な説明を行う体制を整え、妊産婦や家族とより円滑なコミュニケーションが行えるよう努力することが望まれる。
- (2) 妊産婦の訴えやそれに基づく対応などを詳細に診療録に記載することが望まれる。

【解説】本事例では「家族からみた経過」によると妊娠40週5日に当該分娩機関に電話連絡したとされており、妊産婦からの電話を受けた場合は、電話対応の詳細を診療録に記載することが望まれる。

- (3) 胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、新生児仮死が認められた場合には、その原因の解明に寄与する可能性がある。

- (4) 新生児蘇生については、分娩に立ち会うすべてのスタッフが「日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト」に則した適切な処置が実施できるよう習熟することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】児が新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。